

日本脊椎脊髄病学会 平成 28 年度第 3 回国際委員会議事録

日 時 : 平成 28 年 7 月 13 日 (水) 16 時 00 分 ~ 17 時 00 分

場 所 : 東京ドームホテル 5 階 「蓮菜ウエスト」

出席 : 中村雅也担当理事、松山幸弘委員長、小澤浩司委員、川口善治委員、千葉一裕委員、波呂浩孝委員、宮腰尚久委員

欠席 : 種市洋委員、石井賢委員、酒井大輔委員

1. 新委員会メンバーの顔合わせと今後の本委員会のミッションと方針の確認
2. English oral session の活性化に向けた取り組み

宮腰委員より、次期学術集会で積極的に English oral session を実施できるよう取り組みたいが、どのくらいの演題数が集まるかに依存することが報告された。これを受けて、

1) English session にもテーマを設ける、2) 国際委員会招聘演者 5 名の施設から数名の演者を推薦してもらい、一人あたり 5 万円の補助を学会から支給することが提案された。

1) に関しては、外傷、感染、その他の 3 テーマが候補に挙がった。

3. 今後のアジアトラベリングフェロー受け入れについて

これまで台湾と韓国からの受け入れを行ってきた。費用に関して、旅費・滞在費は相手側負担、食費に関しては受け入れ先が負担していたが、食費に関しては本学会が負担すべきではないかとの意見が出た。海外受け入れ先の hospitality を考えると、本学会側もしっかり対応した方が良いのではとの意見が出た。

4. 2016 年以降のアジアトラベリングフェローについて

今後のアジアトラベリングフェローの選考に関するスケジュールが報告された。この 10 年間アジアとの連携を深めていく方針で活動してきており、基本的にはこれまでの方針を踏襲するが、台湾、ベトナム、インドネシアなどの施設は指導者の高齢化で代替わりの可能性があり、また他にも引退される先生も多く、引き続き訪問先施設の新規開拓を行うことで一致した。連携先候補としてアメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどに拡げることが議論された。しかし、NASS は現在学会が分裂しやや混乱していることから候補としてふさわしくないのではとの意見が出た。また、手術への手洗いができる点や Asia-Pacific といった地域性などからオーストラリア、インドなどを候補地として検討することになった。また、ISSLS、SRS との連携も今後検討すべきではとの意見が出た (CSRS は既に独自に行っている)。

5. 次回委員会の日程

日整会基礎に合わせて今後調整することになった。